

県教研

2026

神奈川県高等学校教職員組合 第69次 教育研究集会

「ことばの届け方」

～SNS時代に労働組合をどう語るか～



参加費
事前予約
不要

誰もがいずれ労働社会に流入

日本社会における「労働組合」の役割や必要性を、自身の言葉で同僚や教え子らに語れるよう、ともに考えませんか？

10月31日 土

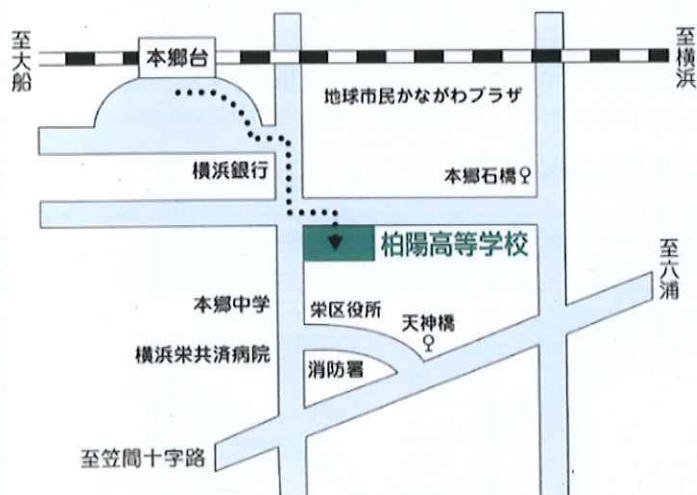
全体会 10:00-12:30

分科会 13:30-16:00

会場

県立柏陽高等学校

(横浜市栄区柏陽1-1)



講師：藤崎 麻里

朝日新聞記者 GLOBE編集部

朝日新聞で経済部、政治部などを経て、GLOBE編集部。GLOBEの労働組合特集をきっかけに「なぜ今、労働組合なのか働く場所を整えるために必要なこと」(朝日新書)を執筆。共著の「ゼミはガチだと役に立つ」(ミシマ社)では、ムスリムの人たちを始めとする多文化の共生について寄稿した。

プログラム

- 9:30 受付
- 10:00 全体会 講演
講師 藤崎 麻里
「ことばの届け方」
～SNS時代に労働組合をどう語るか～
- 12:30
- 13:30 分科会
- 16:00 アンケート

神奈川県高等学校教職員組合 第69次 教育研究集会

県教研

2026

10月31日(土)

全体会 10:00-12:30
分科会 13:30-16:00

会場 県立柏陽高等学校
(横浜市栄区柏陽1-1)

プログラム

9:30 受付
10:00 全体会 講演
講師 藤崎 麻里
「ことばの届け方」
12:30 ～SNS時代に労働組合をどう語るか～
13:30 分科会
16:00 アンケート

全体会 講師：藤崎 麻里

「ことばの届け方」

～SNS時代に労働組合をどう語るか～

誰もがいずれ労働社会に流入

日本社会における「労働組合」の役割や必要性を、自身の言葉で同僚や教え子らに語れるよう、ともに考えませんか？

分科会

◆日本語／国語教育 自分で考えるための国語をめざす
自分で考える力を身につける授業をめざした実践の交流をします。
①授業で扱った二つの文章を比べて考察文を書く
②推しの小説を紹介しその魅力を伝える

◆青年期の心 トッドの「2030来るべき世界」を読む
マニエル・トッドの「日本は米国の戦争に巻き込まれてはいけない」「西洋の敗北」の問題提起に対応する。本を読んでないことで会をすすめます。

◆後期中等教育 校則の見直しと教員の意識
校則の見直しに関して毎年実施している調査結果から、特に服装指導・頭髮指導の実態と指導する側の意識に着目して、その改善点を考えます。

◆人権教育・平和教育
生徒をヘイトから守り、ヘイトに加担させないとりくみを
報告①：外国につながる生徒在籍調査の報告
報告②：ヘイトのない学校に向けて 芝 健司さん（機工分会）
意見交換：ムスリムへのヘイトをどう考えるか
林 リダさん（清真の木）を共同研究者に迎えて

◆健康教育 「多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びの実現について」を考える
2024年度から不登校生徒の学習機会確保のための遠隔授業や通信教育活用等が始まりました。実践報告等を通して、不登校生徒対応や養護教諭の役割、他職種との連携について考えます。

◆図書館教育 新採用学校司書が知りたいことって?!
新採用研修で伝えるべき実務や実践とは何か。
初任5年目の高橋美貴さん（上溝分会）の報告をもとに研修を見直し、さらに継ぐために必要な内容を考えましょう。

◆家庭科教育 共働き社会に向けた家庭科教育
世帯の約7割が共働きの現代で、家庭科に求められていること、家庭科教員が伝えたいこと、子育てと労働などについて検討していきます。

